令和 4 年度前期アーバンデザインスクール第 1 回実績報告書

1. 開催日時

令和 4 年 6 月 23 日（木）16 時 00 分～17 時 30 分

参加人数: 50 名（UDCBK での視聴: 13 名、オンライン: 37 名）

※オンライン会議システムと UDCBK のオープンスペースでの視聴を併用

※オンラインでのアーカイブ配信の視聴回数は、27 回

2. テーマ

「公民連携による地域拠点施設の再生」

- 地域拠点施設の先進事例の学習を通じて、子どもから学生、子育て世代から高齢者まで、多世代の居場所となる JR 南草津駅前の公共施設の在り方について、5 回シリーズで展望する「多世代の居場所となる駅前の地域拠点施設について考える」の第 1 回である。
- 第 1 回の本スクールでは、南草津駅前の居場所となる公共施設のポテンシャルと課題、また復興で再生された地域拠点施設である気仙沼内湾ムカエル・ウマレルの事例紹介について、阿部俊彦氏（UDCBK 副センター長、立命館大学 理工学部 建築都市デザイン学科 准教授）にお話しをいただいた。

3. 話題提供者

- 阿部 俊彦 氏
  UDCBK 副センター長、立命館大学 理工学部 建築都市デザイン学科 准教授

4. 話題の概要

阿部氏による講演

(1) JR 南草津駅周辺における課題と取組

- 令和 3 年度前期のスクールにおいて考察した点として、駅前の公共空間（パブリックスペース）が自動車やバスのための空間になってしまっているという現状がある。
- 南草津駅を利用する人たちへのアンケートには、「一休みできる場所がない」といった不満の声が寄せられている。
- 駅前空間もあまり多様な仕方で利用されていない。阿部研究室では、「パブリックハック」として、個人が好きなように場所を使う実験を行った。
- 昨年度のスクールにおける豊田市の事例のように、駅前広場をスケートボードなどもできるシェアスペースとして活用している場所も出てきている。
- 大学の授業では、南草津駅前広場のリニューアル提案を設計演習の課題として実施している。さらに、令和 3 年度の社会実験準備事業の一つとして、南草津駅周辺のパブリックスペースを考えるワークショップを行った。まずは、駅前でしたいことを模型で表現して、実際にできるかどうか試してみる。試してみることで、周囲の反応や法律上の問題なども分かってくる。
- 草津市では、令和 3 年 10 月に「南草津ビジョン」が策定され、南草津駅周辺エリアのまちづくりについて様々な施策を推進していく方向性が示されている。
- 南草津駅周辺の問題点としては、自動車の所有の有無や属性によって、駅に求めるニーズのミスマッチが生じていることである。また、自動車の利用は朝方や夕方に多く、時間帯によって駅前の利用状況が異なっている。
- 自動車を所有している学生は、遠方に出かけられるため、駅に賑わいをもとめていない。結果として、飲食店しかないような駅前になっている。さらに、駅前を何とかしようという主体も見えづらい（草津駅前のような地元商店街も存在していない）。
- しかしながら、開発により駅を利用する住民は増えており、自動車による送迎や公共交通の利用など解決すべき問題は多い。そうであるならば、むしろ駅前に快適に過ごせる空間を創出することが重要なのではないか。

(2) 気仙沼市での復興まちづくり

- 東日本大震災で被害を受けた宮城県気仙沼市の内湾地区は、震災前から防潮堤のないまちであったが、被災したことで、高さ 5 メートルの防潮堤の建設計画が持ち上がった。
- 防潮堤について市民は港町としての魅力が失われるという観点から反対の意思を示した。また市民同士の議論も行われた。しかし、他の地区では十分な議論がないまま、防潮堤が建設されてしまったところもある。
- 2011 年に内湾地区の復興まちづくりについてのコンペが行われ、防潮堤だけでなく、

住まいや生業を考えたプロセスを早稲田大学が提案し、優秀賞を受賞した。

- まちづくりに当たって、まずはワークショップを実施した。ワークショップではまち歩きを行い、被災後のまちにどのような地域資源が残っているかを確認した。
- さらに、模型を使ったワークショップによって、実践したいライフスタイルや海辺でしてみたいアクティビティ、まちのデザインのアイデアについて話し合った。
- 内湾地区復興のためのまちづくり協議会において、100 回以上の会議を実施し、計 4 回の提言を段階的に行った。そして、市民が納得いくまで、防潮堤のデザインとまちづくりについて検討した（例えば、防潮堤の高さの低減など）。
- 県、市、まちづくり会社など多様な主体がバラバラに事業を進めることがないように、相互調整を行い、海とまちが一体となったシームレスなウォーターフロントの景観を創出させた。
- 無味乾燥なコンクリートの景観になりがちな防潮堤を、市民や観光客が集まることのできる広場とした。非常時には避難施設としても使用できるが、普段は、ピクニックもできる。
- 併設されている観光商業施設には、どのような店でもいいからテナントをうめるということではなく、「海とまちの関係を大切にした生活を実現」というコンセプトを体現するような地元の飲食店を招いた。
- 他にも周辺における建替や共同店舗の開業など小規模事業が連鎖しており、ソフト面でもスローフードフェスタやコンサート、イベントアートなどの事業が行われている。また、クラフトビールなどのまちのコンテンツも生まれてきている。
- 地域拠点施設は、箱や空間が存在するだけでは意味がなく、持続的に使いこなせる仕組みがセットになることではじめて活かされる。

(3) 気仙沼の復興まちづくりの事例から南草津に活かせるポイント

- 「まちの玄関口」としての南草津駅をどのような場所にするかということに関して、気仙沼市で実践してきた一連のプロセスは参考になる。
- 南草津駅がまちの玄関口として目指すべき固有のコンセプトをつくる。
- 駅を利用する人たち（住民・学生・働いている人など）が思い描く理想の居場所や、過ごし方、ライフスタイルを考える。
- 季節、曜日、時間など、きめ細かい制限・緩和のルールを適用することで、駅前空間の多様な活用が可能になる。
- 公共と民地をシームレスに利用できるようにするなど、現在は閉鎖的な駅前空間をグランドレベルで開放的にリノベーションする。
- UDCBK では、令和 2 年度に 2040 年の南草津駅周辺の未来を描くワークショップを実施してきたが、未来に向けて、今から駅を利用する人たちと公共施設の在り方について考えておくことが大切になる。

5. 質疑応答等

(1) UDCBK: 南草津駅前の施設「フェリエ」は草津市と民間企業の連携が必ずしも容易でなかった部分もあったように思われる（公共施設と民間事業者との棲み分けなど）。他の施設ではその辺りはどのように行われているのか。

阿部氏: 気仙沼市の事例では、まちづくり協議会をプラットホームとして、その場で全て方向性を決めることとした。協議の場には、県や市の担当者も参加して、戦略的に物事を進めていった。例えば、フェリエでは、公共と民間事業者の場を厳密に区分し過ぎるのではなく、空いている場所を人々が集える場所として活用するなどの方策を検討することもできるのではないか。誰が担い手になるのかということは新しいまちにおける問題だが、新しいマンションの住民がまちづくり協議会に入ってもらうということもできるかもしれない。

UDCBK: 今後、施設の信託期間が期限を迎える時が訪れるので、様々な先行事例を参照しながら、草津市の都市計画部とも連携して、施設の在り方を考えていきたい。

(2) 参加者 1: まちづくりのターゲットや担い手について現時点で何か考えられることはあるか。

阿部氏: 現時点では明確には分からない。もう少し詳細な調査が必要だと思う。昨年度に南草津駅前で実施された交通社会実験も交通のみではなく、周辺の店舗をどうするかといったもっと大きな視点が含まれていればより良かったと思う。交通の流れが変わった時に、どういった人の流れがあるのかというようなことが分かってはじめてターゲットや担い手が明確になってくる。ただ、分からないからといって放っておくと全てが後回しになって、南草津がこれまでのままで、何も改善されないということにもなりかねない。現在の気仙沼市の取組は復興ではなく平時に行われているものである。そういった意味では南草津と同じフェーズにあるので参考にできることも多い。地元の人以外の色々な人がまちづくりを担うことが重要である。

(3) 参加者 2: まちづくりには継続、蓄積が大切だと思うが、その辺りはどのようにまちづくりに活かしていくことができるか。

阿部氏: まちづくりの担い手が、（4～5 年経つと）変わっていくことで、今まで築き上げてきたものが活かされないということはとてももったいないことである。集めてきたデータは分析して、公開し、皆に共有していく必要がある。南草津駅前に特化したまちづくり協議会という組織がないのであれば、UDCBK がその役割を担うような仕組みも一つである。

(4) 参加者 3: まちづくりを担うはずの DMO、まちづくり会社、観光協会の役割がよく分からず、機能していないように感じる。問題点、課題はどこにあるのか。

阿部氏: 草津市全体で色々な課題があることは認識しているが、今回のスクールでは南草津駅周辺にターゲットを絞りたいと思っている。それは、草津市の中でも地域ごとに抱える課題が全く異なるためである。今後、草津まちづくり会社のような組織が南草津にも必要なのか、あるいは UDCBK の延長で同じようなことができるのか、考えていく必要がある。南草津エリアは、例えば、帰帆島やびわこ文化公園に自転車で行けるようなルートをつくるなど、草津エリアとは違う観光の在り方が求められると思う。

(5) 参加者 4: 一番困っている人が担い手になり得るかと思うが、誰がそのような対象になり得るか。

阿部氏: 以前行ったシナリオプランニングのワークショップでは、未来に起こりうるトレンドを想定し、どのような人がどのようなことで困るのかといったことを想像して頂いた。そういった取組をしてみないと、困っている人が見えない。今必要なのは、将来の南草津に不安を抱いている人や南草津を面白くしていこうという人たちで議論することだと思う。現実的な問題として、将来、マンションの住民にとっても、同時多発的に老朽化するマンションの維持管理や住民の高齢化の問題が発生し、空き住戸が増えることによって、防犯や景観など、まちのイメージにも影響する可能性がある。問題が自分事になれば、マンションの住民も、将来、まちづくりの担い手にならざるをえない。直近の課題としては、フェリエの空いた空間をどうするかといったことを想像することが大切になるが、単なる課題解決ではなく、十年後を見据えてどうするべきかという自分事として考えてもらう視点が大切だと思う。

6. アンケートまとめ

参加者 50 名のうち、アンケートに回答いただいた方は 24 名、回答率は 48%だった。

問 1. 参加者属性

(1) 年代（回答数: 24）

10 代～20 代	30 代～40 代	50 代～60 代	70 代以上
3	11	8	2

(2) お住まい（回答数: 24）

草津市内	滋賀県内他市	滋賀県外
8	9	7

(3) 職業（回答数: 24）

学生	大学関係者	会社員等	その他
1	3	15	5

(4) 開催を知った手段（複数回答）（回答数: 26）

チラシ	ホームページ	SNS	メールニュース	広報	知人	その他
6	1	4	4	1	4	6

問 2. 今回、印象に残った点、講師の方へのメッセージなど

- 草津に一度足を運びたいと思います。
- 以前、津波対策に係る業務を担当していました。前半の話にあった、津波を防ぐための施設を作るのではなく、津波から逃げやすくするための整備に費用を投じるべきという点に共感しました。まったくその通りだと思います。
- 他都市の住民ですが、いつも勉強させていただきありがとうございます。今年のシリーズも大変楽しみです。草津市さんのオープンな進め方と立命大さんの協調が素晴らしいです。我街、大津市でも参考になること多く、今後も横のつながりが広がるようにしたいと思います。コロナ禍の前、毎月 2、3 回、半日程所用で駅前と近隣施設を利用していたので、南草津駅には思い入れがあり今後とも勉強させていただきたいと思います。
- 非常に興味深いご講演をありがとうございました。駅前の公共施設の在り方はどの自治体も抱えている課題ではないでしょうか。人口減少時代を迎える中、コロナ禍で鉄道会社の業績が悪化、住民の働き方もライフスタイルも変化し、先が見通せない不透明な中でのまちづくりは計画や実施においても難しい判断が迫られるところだと思います。
- ウォーカブルシティ等、国は様々な施策を示してきますが、状況は地域それぞれで異なり、実施できない自治体も少なくありません（先ほどご質問した DMO も当初は国から示されたものですが、本市ではほとんど機能しておりません）。公民連携するにもまずは行政がリーダーシップを取るべきと考えます。
- 東京からのオンライン参加者です。気仙沼にも南草津にも、もっと知って訪れてみたいです。都市郊外ではどの駅前でも、活性化だー、賑わいだー、と「やらなきゃいけないこと」になっています。人口減少の中で、寄り集まって暮らすことが必要だと本能レベルでコミュニケーションを求めているように感じます。一方、地方に行くほどその危機感を薄く感じるのは、車社会が大きな要因だなと本日のお話から合点のいくところで

した。一休みできる、ぷらぷらできる、グランドレベルでの可視化が「何のために必要なの?」「なぜ南草津に必要なの?」というところの共通認識が、ぜひ内から外へ滲み出すような取り組みになりますように!

- 「南草津駅前を何とか活性化しようという主体が見えない」という課題点がとても印象的でした。南草津駅の乗降客数は決して少ないわけではないため、課題点のなかに「利用者の駅前活性化のニーズがない」とのことでしたが、せっかくの立地を何か活かせればと感じている利用者は多いので、草津駅周辺とは異なる京都や大阪にはない住宅地だからこその魅力を創り出せれば、もっと活性化するのではと感じました。まちづくりは、誰かがするのではなく、住民や利用者が意見を出し合い実現化させることが出来るということを知る機会が必要だと感じました。
- 印象に残ったのは、「気仙沼の復興まちづくりから南草津に活かせるポイント」と「南草津駅前の居場所となる公共施設の在り方」の問題点のお話でした。理由は、最初、地元で生まれ育った方が多いと思われる気仙沼と、地元生まれの方や新しい住民、勤務・通学の為に通過するだけという方が混在する南草津では、違うように思いましたが、参考になる事があると感じたからです。また、阿部先生の、草津駅周辺と南草津駅周辺の雰囲気は違うと思う、というご意見には共感しました。私自身、違いを感じ、同時に 2 つの駅周辺の違いが魅力だと思うからです。そして南草津駅前には UDCBK があるという事が、今後さらに重要になると改めて感じました。
- まちづくりに必要なノウハウやスキーム、現場でのご苦労がとても良く理解できる素晴らしいスクールでした。個人的には昔まちづくりの現場で取り組んでいたことが走馬灯のように思い起こされました……南草津駅周辺のまちづくりの具体化が進んでいきそうな気がしました。引き続きよろしくお願いいたします。
- 南草津駅については賑わいがないとのことであり、改善をする必要はあるが市民の関心がさほどない中でお金をかけて施設を整備していくことに難しさを感じております。
- 具体的な事例で、大変ヒントになりそうなアイデアがありました。
- 「まちなか広場」「エリアプラットホーム」というワード。“推進”を考えると軸となる担い手が必要だけど、プラットホームには多種多様な人の参加が必要だとも考えます。
- 気仙沼の事例では「震災」をきっかけに「復興」に向けて（思いは違えど）同じ方向を各人が見ていたと感じた。南草津で市民・行政等が同じ方向を向く合意形成が必要になるのかと思う。
- 南草津駅周辺のエリア全体をデザインする視点を。その担い手の必要性。（UDCBK の役割とは）
- 「住民が納得するまで」の過程がどのようなものだったのかをもっと知りたい。
- 新しく開発する場合の街の計画、環境、土地計上について検討する場合、住民、県、市町村等よく関係者と話し合うように。
- 気仙沼の復興のお話で、津波対策の防波堤を県が災害対策として生死に関わることで

あるから実施したいと強く要望しているなか、町が死んでしまう良好な景観がなくなると住民が反対意見を行い、その両者の思いを大事にしてデザイン化された事例を説明いただき、その回答がでるまでのプロセスについて土木構造物は一定の技術基準を満たすものの、多様な使い方がなされにくいと思われるなか、特に興味がわきました。

- またそのためには当初より構造物の費用がかかったのかは分かりえませんでしたが、多くの予算を投入し整備された現在、予算はもう充てられることは少なくなるが、次の世代がその使い方が問われるとの提示をいただき、南草津駅前にもつながるところがあり、多くの方に素晴らしい景観ができるように課題解決へ関与いただけるように、UDCBK の活動のなかで新たな人のつながりが出来上がってくることを期待しています。今回のセミナーのなかで様々な現場での苦労話をお聞きいただくことで、南草津における提案していくためのアイデアのきっかけになればと思い、受講しようと思っていますが、毎回セミナーを受けたら一端終わりになり実現化（デザイン）の話ができていないような気がしています。セミナーの後でワークショップ実施、またワークショップをするからアイデアのエッセンス出しとしてセミナーを受けていただく、ともに相乗効果を出すような流れを計画いただけてもよいかなという気がします。昨年の寶珍先生のワークショップでも、学生のみなさん、市民の方が実現性への課題は一端おいて素敵なアイデア出しをいただきましたので、関連するセミナーでまたさらに違った考えも知っていただき、今 UDCBK に飾っていただいている模型がさらに良くなるかもしれない可能性が広がると思います。
- 仕事で参加できなかったため、スライドを拝見した感想です。見当違いであればご容赦下さい。南草津駅は東側には立命館大学、パナソニックを初めとした国内でも一流の大学・企業が揃い、また西側には西日本最大級の分譲地南草津プリムタウンと、産官学民協同の事業を実施するに当たってこれほど価値のある街はあまりないと思っています。従って、需要がなさそうと進化を躊躇してしまうのはあまりにももったいないと思います。東口にあるフェリエ南草津は、そんな素敵な南草津駅直結にも関わらずほぼほぼシャッター街である事に心が痛みます。例えばですが、大学発ベンチャーのお店なんてあれば盛り上がらないでしょうか。
- 気仙沼の例は、たいへん興味深く感じました。ぜひ、新しいまちづくりを目指していただきたいと思います。
- 面白かったです。まちづくりの各主体（官・民など）をシームレスにつなぐ役割の大切さを感じました。湖南市在住ですが、「困っている人がいない」とは正にその通りで、そのような中であっても 30 年後を見据えてジブンゴトとして取り組む人をどう生み出していくか、改めて考えさせられました。
- 復興の中で行政の縦割り組織の問題と住民の中のそれぞれの思いの問題への創造力とコーディネート力がとても重要なこと、さらには気仙沼復興もこれからが重要でお金をかけられないといった状況となり今後の地域コミュニティの課題は同じだと感じま

した。南草津でも大津でも同じですが、建物完結型にまだとどまっているのだとおもいます。人が集まりたい、価値を感じられるようにしていくことが重要ですし、そのためにコンセプトとターゲットをどうするかと、さらには駅前から離れた土地に、近隣に誘導するような動線作りも重要だと思いました。

- 事例紹介の中で、まちづくり協議会の役割、100 回もの会議、徹底した対話が素晴らしいと思いました。印象に残った言葉・キーワード「やれること、やれないことを隠さず協議」「気仙沼まち大学」「まちのコンテンツは市民とまちのファンが創っていく」。今の UDCBK は関係人口を増やせる拠点です。大学生や高校生、まちづくりに興味のある人、住民（困りごとがある当事者もない人も）、事業者、市民活動グループなど、幅広い人が話し合えるワークショップももう少し必要かもしれません。駅前（駅周辺）で何がしたいか? 何が出来るか? フェリエがどこまで市民に開放出来るか? 考えてみたいし、知りたいです。

問 3. 今後のテーマや概要等についての要望

- 適切だったと思います。
- 長さはちょうどいいと思います。できれば 30 分前倒しできるとありがたいです。
- 1. 形態　今回の様にハイブリッド開催を希望、ハイブリッドの場合、聞き取る為に会場参加者さんにもマイクを利用していただくと嬉しいです。
  2. 時間帯は平日の午後もっと早い時間帯（13:00～等）か以前の様に 18:30～を希望
  3. 今回も前に配布資料をネットで送付いただきありがとうございました。
- 民間企業、大学関係者、行政、議員の意見交換が図れる企画を希望します。
- 申込者以外にも、講演内容を見ることが出来れば良いと感じました。（一定期間でも、市のホームページ等にアーカイブをアップする等）
- スクールの後に参加者が集えるサロン的な企画があると楽しいかもしれません。アフターコロナに期待しています。
- オンライン併用だといいですね。
- 南草津を軸にしているのであれば草津駅の方を実験的に参画してほしい。UDCBK の守備範囲は市全体では?
- 行政の思いと住民の思いのギャップ。事例。
- 多世代の居場所となる駅前がテーマですので、難しくまた一番の課題ですが、多くの方に関わっていただく方法を、今までの UDCBK でつながった方みんなで模索していくようになればいいと思います。例えば手間が増えて恐縮ですが、来られていない方がテーマの少しでいいのでエッセンスを定期的にメールでお伝えし関心を高めていただくなど。
- ビデオ配信を待っております……
- 50 分程度のお話が望ましいと思います。